



吉高ニュース

令和7年 7月号

万博で中央アジア・キルギスの民族楽器「コムズ」を演奏しました！

吉城高校英語科の渡邊です。私は約2年間、吉城高校に籍を置きながらJICAの海外協力隊に参加し、キルギスの教育センターで現地の小学生から高校生の子どもたちに英語や日本語を教えました。そこで民族楽器のコムズに出会い、現地の大自然や風景を表現した曲や素朴な音色に惹かれ、キルギスの方たちが演奏する姿を喜んでくれるのも嬉しく、任務の傍ら練習を積み重ねました。今回、万博会場で内陸アジア地域での活動や文化芸能を紹介するイベントがあり、そこでコムズを演奏してきました。キルギスでは現地の子どもたちと学びを深めたり、



万博での演奏



キルギスの大自然と乗馬

現地の大自然や文化を満喫したり、貴重な体験をしてきましたが、帰国後もこのような貴重な機会をいただき、3年前にキルギスに行く決断をしてよかったなと感じています。協力隊のキャッチフレーズに
「人生なんてきっかけひとつ」

というものがあります。ちょっとした決断や挑戦が人生を大きく切り開いてくれるかもしれません。吉高生みなさんにも様々なことに挑戦し、飛騨から世界を望めるような大人になってほしいと思います。



現地での授業の様子

岐阜県立吉城高等学校 文化祭

人と人とのつながり

第77回 柏葉祭

7月25日(金) 8:40 ~ 14:50
7月26日(土) 8:40 ~ 15:00
※25日は、オープンスクールを同時開催

今年の柏葉祭テーマは「CONNECT」
「高校生はもちろん、地域の方々や中学生など様々な人とつながりたい」という
気持ちがこめられています。
今年度はオープンキャンパスも兼ねての開催となります。
前年度と同じくキッチンカーも2日とも10台ほど出店予定です。
皆さんの参加をお待ちしています。

吉城高校写真部の撮影



柏葉祭に向けて
活動中!!



飛騨市文化協会の作品展示、
古川中学校とのコラボ企画も
あります。

古川駅東駐車場からシャトル
バス出ます。

日々の様子は公式 Instagram
をご覧ください。👉



生徒会長 3年理科 野首こころ(日枝中出身)



第77回柏葉祭のテーマは「CONNECT」
～人と人との繋がり～です。このテーマには、
吉高生同士や、中学生、地域の方などとの人
の繋がりを増やし、もっと吉城高校の魅力を
知ってもらいたいという思いが込められてい
ます。また、今年は例年よりも早い時期での
開催になります。昨年改革したことは今年も
続け、新しいことにも挑戦し、吉城高校一丸と
なって柏葉祭を成功させます。柏葉祭は
7/25(金)、26(土)です。ぜひ、お越しください！

文化委員長 2年理科 池尾千咲(古川中出身)



今年度の柏葉祭の生徒会企画では、古川
中学校の有志生徒とコラボし、スタンプラリ
ーを実施します。この生徒会企画を通して、
吉城高校の魅力をより多くの人に伝えられる
ようにするために中学生の皆さんと一丸とな
って取り組んでいます。古川中学校の皆さん
とつくり上げたスタンプラリーをより多くの人
に体験してもらい、柏葉祭を楽しんでいただ
きたいです。ぜひ吉城高校に足をお運びくだ
さい！



地域課題解決型キャリア教育「吉高地域キラメキプロジェクト」

YCK PROJECT REPORT

第4号

地域をフィールドに多様な人とのつながりが価値ある学びをつくる

YCKプロジェクト 課外活動プログラム 「②京都大学ワークショップ」を実施しました！

「京都大学ワークショップ」

- ◆日 時：令和7年6月15日(日)
 ◆場 所：Fab Cafe Hida
 ◆参加者：1年生(1名)、2年生(5名)
 ◆講 師：京都大学フィールド科学教育研究センター 徳地直子教授他



京都大学は地域協働活動を実践しており、飛騨市をフィールドに様々な研究を行っています。このプログラムはその活動の一つとして大学生や研究者と交流しながら地域の自然・営みに触れ、持続可能性について地域で考える企画です。今回は「地域に残したいもの」をテーマとし、本校生徒と京都大学の学生、京都府立洛西高校の生徒との交流を通して、地域の持続可能性について考えました。古川の町や牧場・森で飛騨に残したい(持続可能にしたい)もの・コトについて班ごとに情報収集し、発見したことや考えたことなど話し合いました。このプログラムに参加した生徒は「将来市役所で働きたいと考えており、地域の魅力を残していくにはどうすればよいか考えた」「地域創生に興味があり、自分の知らない飛騨の良さをもっと知りたい」、「飛騨の魅力を県外の人にも知ってほしい」という動機で参加を決めたようです。

午前は学生が事前に飛騨に残したいと考えた五平餅・飛騨牛・森の三つのグループに分かれ、古川町内のそれぞれの場所で地元の方へヒアリングを行いました。五平餅のグループは岡田屋さんにて飛騨で愛されている五平餅について、たれの特徴や原材料費・光熱費等の高騰で苦労していることなど聞き取りをし、また飛騨牛のグループは田中牧場にて良質な牛を育てるための努力や環境への配慮、後継者不足の問題について聞き取りました。森のグループは古川町高野にある岡田さんの森にて、整備された明るい光の入る森の中を歩き、できたての空気や自然の音など五感を使って観察しながら、飛騨の森の特徴や林業従事者の減少といった課題について聞き取りました。午後は集めた資料をあわせ、ポスター制作を行いました。ヒアリングを通して気付いたことや考えたことをポスターにまとめ、発表して全体に共有しました。五平餅を瀬戸川の鯉の形にし、期間限定で多様な味を展開する、森を手入れされる方の想いを伝え、森に実際に入って効能や楽しさを知ってもらう、飛騨牛は市や金融機関を挙げて新しく始めたい人のサポートをするといった持続可能にするための解決策を考え、提案しました。持続可能とは「その時代や流れに合わせて、柔軟に形を変えていくこと」と発表した班があり、それぞれのヒアリングから持続させる難しさを感じたようでした。グループ内で対話し、共同することで改めて飛騨を見つめなおし、様々な学びを得ることができました。



生徒のワークシートから、感想・ふりかえりの一部を抜粋しました。

飛騨の豊かな自然・食文化と大学の研究に触れた！

1年生	2年生	2年生
・一年生が自分一人だけでなじめるか不安でしたが、学年・学校関係なくグループの一員として見てくれたおかげで、自分を出してワークショップに参加でき、よい経験になりました。自分一人でプレゼンを作るのではなく、チームで話し合い、協力し合ってプレゼンを作り上げる経験でき、よかったです。	・今回参加してみて、地域の方の活動や自分の知らなかった森の良さ・魅力を知ることができ、とてもよい経験になりました。また、普段関わることのない県外の高校生や京大の皆さんと活動することができ、とても楽しかったです。伝えたいことを誰にでも分かるようにまとめることは難しいと感じました。	・違う地域の人の視点を知り、自分が住んでいる地域についてより深く知ることができた。持続可能な形にするにはどうしたらよいか、そもそも持続可能性とは何かについて考えることができた。

ご意見・ご感想などは、吉城高校・キャリア推進部までお問い合わせください。



課外活動プログラムの一覧はこちらから

☎ 0577-73-4555